

右永代年貢段錢所寄進如件。

應永廿三年八月 日 藤原有利 在判

(恒利名が珠洲郡馬繫村に屬することは貞和五年四月十一日の條に見えたり。馬縹とあるも馬繫に同じ。)

應永廿四年 丁酉 紀元二〇七七

十月二日。二階堂山城、羽咋郡直海保熊野方の下地を賣渡す。

【天野文書】

七七六

(編書) わくらのきりいこ二階堂山城殿うりけん狀しそくせうと

賣渡

能登國直海保之内熊野方切岩新田事

合佰疋者

右彼下地者、依有要用、加北浦永代賣渡申所實也。千万違亂煩出來候者、惣領下地ニ御かゝり候て、可有其沙汰候。仍爲後日賣券狀如件。

應永廿四年十月二日

□ □ 在判

(本文の下地を買得したる者は天野彦次郎慶景なるべし。)

十月八日。羽咋郡氣多社政所、同社領千路村の宣持職田を楊田宮司に安堵せしむ。

【氣多社文書】 羽咋郡

七七七

袖判

政所下

氣多社免田之事

在所 千路村之宣持

職田三反并在家屋敷

右件田畠在家等者、楊田宮司重代相傳之地也。然間任社家理運、如元楊田宮司後須進退領掌、不可有相違者也。至社役者守先例、神祭等於怠者可致其沙汰、社家宜承知、敢勿違失。仍執達如件。

應永廿四年十月八日

左衛門尉有宗

氣多社務大宮司

應永廿五年

戊戌

紀元二〇七八

十二月六日。藤原滿宗、石川郡祇陀寺に、能美郡河内莊栢森野を賣渡す。

【祇陀寺文書】

七七八

賣渡

加賀國河内庄栢森野一村之事

合 四至堺本文書在之

右栢森野者、滿宗重代無相違領也。而依有要用、代錢伍拾貫文仁、永代爲奉祇陀寺賣渡之處也。此上者爲滿宗子孫、聊不可致違亂妨也。仍爲後日龜鏡賣券狀如件。

應永二十五年十二月六日 河内庄惣領地頭滿宗 在判

(藤原)  
(河内莊は能美・石川二郡に跨れども、杉森は前者に屬す。)

十二月十八日。加賀守護富樫滿春、山城石清水八幡宮に、百貫の地を寄進す。

【菊大路文書】 山城

七七九

奉寄附 石清水八幡宮

加賀國百貫地

右爲天下泰平、(是利益特)特上様御壽命長久、且子孫繁昌、家門無爲、永代奉寄進之狀如件。

應永廿五年十二月十八日

富樫介滿春 在判

應永廿六年

己亥

紀元二〇七九

三月六日。鳳至郡如意寺行心、祐心に、その住坊田畠を讓渡す。

【寶泉寺文書】 鳳至郡

七八〇

讓渡如意寺住坊田畠事

合伍反九

此内雨宮田一反八  
此内五田山崎松林寺除

左京公祐心所

右以彼人所任之實也。然則不可有他妨者也。仍爲將來明鏡之狀如件。

應永廿六年三月六日

行 心 在判